

夏の日覚まし

夏の風物詩のひとつ、朝の日覚ましがわりとなつているのがセミの鳴き声！

町民のみなさんも、一度ぐらいはセミをとったことがあるかと思えます。今は便利な虫取り網がありますが、昔はバサー（バシヨウ）の葉を丸めたものや、手作りのヤンムチ（とりもち）でセミをとっていたそうです。

ヤンムチは、ガジユマルのチー（樹液）を泥にまぜて、こねてつくります。チー（液体）が、ガム状（固体）になったところで泥を洗い流し、棒の先にとりつけて完成。

また、トウピラ（トベラ）の実をつぶし、その汁でヤンムチをつくる場合もあります。

そのヤンムチの標的となるセミは、それぞれ出現する時期と、鳴き声が異なります。

トップバッターは、シーミーグワー（クロイワニイニイ）で、5月ごろからシーとかジーという高い声で鳴きます。

6月下旬ごろから登場するのが、大きなサンサナーまたはソツソヤー（クマゼミ）で、鳴き声は、サンサンサン。

8月ごろには、羽が茶色のギージャー（アブラゼミ）が現われ、ギジギジーと鳴くようです。また、ギージャーをナーピカチカチーと呼んでいる字もあります。

その後、夏の終りを告げるように、シーワーまたはクーワー・グーワー（クロイワツクツク）がシーワシワまたはクーワクローワ・グーワグーワと11月ごろまで鳴いているようです。

このセミを、ヤンバルクガニーと呼んでいる字もあります。ですが、シーワーと同じころ山原で姿をあらわすオシマゼミとは異なります。もちろん、みなさんはそのことをきちんと判っているようです。

話をうかがった60代以上の方々のほとんどが、これらのセミの種類と鳴き声を聞きわけることができるなんて驚きです。

また、セミが好んでとま

る木は、シンダン（センダン）とターラサー（ホルトノキ）なのだそうです。みなさんもびっしりとセミがへばりついている木があったら、その木名をチェックしてみてください。

ヤンムチでとったセミは、スーティーチャー（ソテツ）の葉を編んで作った虫かごに入れたり、セミのおへそに塩を入れて焼いて食べたり、トウイ（ニワトリ）のえさにしていたという話もうかがいましたよ（もつとあるはず）。

このように、セミひとつとっても、話がどんどん広がっていくので、西原の方言を拾う作業はなかなか大変。しかし、「今しかできない」という思いで、調査にでかけていきます。

ところで、みなさんはセミの鳴き声を聞きわけることができますか？



初夏に鳴く・クロイワニイニイ